【小6】国語 文章問題　物語文 4

月　日 名前 ／100点

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

六年生の三月、ぼくたちの班は、小学校で最後の給食当番になった。白いエプロンをつけるのも、今日でおしまいだ。

配ぜん台の前に立つと、一年生のころを思い出した。あのころは、大きななべが重くて、二人がかりでもよろよろしていた。スープをこぼして、ないてしまったこともある。そのとき、上級生のお兄さんが「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と言って、ゆかをふいてくれたのだ。

今、ぼくは一人でなべを運べる。おたまの使い方も上手になった。みんなのおわんに、スープを同じくらいずつ、手早く入れていく。

列の最後に、担任の先生がならんでいた。

「先生、多めに入れておきますね。」

ぼくが言うと、先生は「ありがとう」とわらった。

当番の仕事が終わって、エプロンをたたんでいると、同じ班のさとみさんが言った。

「なんか、さびしいね。」

ぼくは「べつに」と答えようとして、やめた。本当は、ぼくもさびしかったからだ。

「うん。……さびしいな。」

口に出してみると、胸のあたりが少し軽くなった。ぼくたちは、たたんだエプロンを、きちんとふくろにしまった。来年、あのエプロンをつけるのは、今の五年生だ。だれかがこぼしたら、今度は、その子たちが「だいじょうぶ」と言ってあげるのだろう。

（この問題のための書き下ろし）

問一　一年生のころ、スープをこぼしたぼくに、上級生のお兄さんは何と言いましたか。本文から十五字までで書きぬきましょう。

問二　「今、ぼくは一人でなべを運べる」という表現から分かることは何ですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　なべが、一年生のころより小さくなったこと。
イ　一年生のころとくらべて、ぼくが成長したこと。
ウ　ほかの当番が、なまけていること。

問三　ぼくが「べつに」と答えるのをやめたのはなぜですか。「～から」につづくように、本文から十五字までで書きぬきましょう。

問四　最後の一文で、ぼくはどんなことを思っていますか。「だいじょうぶ」という言葉を使って、五十字までで書きましょう。